

経済・雇用分科会の議論のまとめ(案)

今後の経済・雇用環境のあり方

市民のアクティビティを高め、市民ニーズに合った、また、札幌の魅力を高めるような経済活動を図る

チャレンジとセーフティネット、ともに対応できる環境づくりを図る

取組みの課題

将来を見据えた産業振興のビジョン・戦略

札幌の新たなまちづくりの取組みの積極的発信

小さな企業や起業家を支援する仕組みづくり

困ったとき、失敗したときの支援体制

重点的な取組み

発信の強化  
札幌独自の魅力づくり・情報

札幌独自の芸術・文化・祭りなどの積極的な活用と発信  
大通公園、街なみ、季節感ある山なみなど美しい魅力的な景観づくりと使い方の工夫  
地域に目を向けた取組みによる札幌ブランドの育成  
札幌の魅力をノウハウや生活スタイルも含めて札幌ブランドとして確立・発信

実効性の高い支援  
小さな企業・起業への

中小企業ひとくくりではないきめ細やかな零細企業対策  
既存のやり方とは違う元気基金の制度設計・支援施策  
相談支援機能の実効性の向上

市民や地域のニーズに合った産業雇用施策

ニーズが高まる健康・福祉・医療分野の産業育成  
人材集約型の地域ビジネスの中での雇用機会の創出  
特に女性などへの就労支援機能の強化  
労働、職場環境に関する相談支援機能の強化

取組みに必要な視点

民間も行政も、コミュニケーションを密接に図るとともに、発想の次元を変えていく

「リスク負担」についての情報を共有する

新たな人材の投入などにより、民間も行政も、人づくり・組織活性化を図っていく

北海道と札幌市の連携した取組みで相乗効果を図っていく

行政の専門家ネットワーク情報を活用する。また、ITによる行政サービスなどの質の向上を取組みに活かしていく

産業振興策を実施する市や財団などの主体の役割を点検・明確にする

施策の成果をしっかりと評価して産業振興策に取り組む

国際化を意識するとともに、男性女性共に生きいきと暮らせるまちにしてい

補足資料

重点戦略課題	重点的な取組み	分科会の議論，市の素案に対する意見における委員の具体的な意見
<p>中小企業や創業に挑戦する市民へのきめ細やかな支援</p>	<p>小さな企業・起業への実効性の高い支援                      中小企業ひとくくりではないきめ細やかな零細企業対策                      既存のやり方とは違う元気基金の制度設計・支援施策                      相談支援機能の実効性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業対策というより零細企業対策をたてる必要があるのでは（内田会長）</li> <li>・札幌商工会議所会員の一部は，零細企業（荒委員）</li> <li>・中小企業全体ではなく業種別の整理をしていくことが大事（高田委員）</li> <li>・企業経営者の情報と自己啓発トレーニングの必要（高田委員）</li> <li>・元気基金は，今までと同じやり方をするならば，例えば，札幌に本拠を置く新規の法人の法人市民税を5年間無料にするなどに振り向けるべき（田村委員）</li> <li>・元気基金は，無担保無保証で資金提供する資金にしてほしい（田村委員）</li> <li>・長期資金を拡充することで資金需要の対応力を高めるべき（田村委員）</li> <li>・補助金や融資は，廃業してしまうこともあるということを入れておくべき（高田委員）</li> <li>・元気基金は，新しい仕組みでやっていく観点でやってほしい（内田会長）</li> <li>・「リスク負担」についての情報，見通しを市はきちんと提供すること（内田会長）</li> <li>・中小企業支援センターの機能を民間に委託し，夜間も受付る体制にするなどの見直しをすべき（田村委員）</li> <li>・財団は，違う人材を入れて活性化させるなど，市民側・企業側の視点を取り入れる組織体とする工夫を（内田会長・高田委員）</li> <li>・ある程度家庭のことまで相談でき，かつ先の戦略を持つ相談員が必要（高田委員）等</li> </ul>
<p>安心して働ける環境づくり</p>	<p>市民や地域のニーズに合った産業・雇用施策                      人材集約型の地域ビジネスの中での雇用機会の創出                      特に女性などへの就労支援機能の強化                      労働，職場環境に関する相談支援機能の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材集約型の在宅看護の分野での雇用創出の工夫は考えられないか（工藤委員）</li> <li>・中高年の失業，職場経験の浅い主婦，特に母子家庭の職業訓練は，最も力を入れなければならない（高田委員）</li> <li>・キャリアコンサルタントの協会とも接点を持っていくとよい（高田委員）</li> <li>・女性の働く場の改善を積極的に言っているのでは（内田会長）</li> <li>・福祉の関係でも社会参加する仕組み，市民の心を育てるやり方の工夫を（内田会長）</li> <li>・雇用，起業におけるトラブル時の対応を施策の一環とするべき（工藤委員）</li> <li>・雇用関係について国とは別の立場で市はどうするのか考えてほしい（工藤委員）</li> <li>・雇用トラブルを回避し，失業者を増やさないための労使双方への支援（工藤委員）</li> <li>・公契約における公正な労働基準確保条例の制定（工藤委員）</li> <li>・市はコーディネーターとしての役割を果たす形で，市民と連携しては（工藤委員）等</li> </ul>
<p>協働による観光振興とコンベンション事業の推進</p>	<p>札幌独自の魅力づくり・情報発信の強化                      札幌独自の芸術・文化・祭りなどの積極的な活用と発信                      大通公園，街なみ，季節感ある山なみなど                      美しい魅力的な景観づくりと使い方の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大道芸に対する支援など，観光の目玉づくりを（高田委員）</li> <li>・観光客の中にもお年よりの方はおり，駅やテレビ等周辺など人が集まる場所の利用し易いバリアフリー施設整備は大切（荒委員）</li> <li>・小さな町に負けずに，役所と企業のコミュニケーションを積極的に（荒委員）</li> <li>・ボランティアで藻岩山が紅葉で一杯になるくらいの風景をつくっては（高田委員）</li> <li>・大通公園のイチョウ，紅葉は，海外の観光客も感動しており，もっと工夫していくとすば</li> </ul>

	<p>地域に目を向けた取組みによる札幌ブランドの育成 札幌の魅力をノウハウや生活スタイルも含めて札幌ブランドとして確立・発信</p>	<p>らしい場所になる（荒委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大通公園周辺については宣伝車などについて一定の利用規制をしては（荒委員）</li> <li>・（大通公園などは）利用規制をするのではなく、時間がかかっても自発的な形で、望ましい使い方がされていく方がよいのでは（内田会長）</li> <li>・大通公園は、大道芸の表現活動のステージなどもっと日常的に使う工夫が必要（高田委員）</li> <li>・宝石に等しい歴史感のある赤レンガ北海道庁舎周辺の活用を北海道と市で連携して進めて欲しい（高田委員）</li> <li>・フィルムコミッション事業を市民とともに推進し、映像資料、建物の保存を進め「映像ミュージアム」等をつくり、芸術・文化の観光資源とする（田村委員）</li> <li>・地域の芸術・文化などの情報を大切にすべき。札幌で評判の高い情報はよそでも評判になり、札幌ブランドとしての情報になっていくことが考えられる。新しいことをやるだけではなくて、今ある芽をネットワークにうまくのせるなどして、辛抱強く育てていくことも必要では（内田会長）</li> <li>・札幌の「売り」を明確にし、意識的に打ち出す必要がある（平本委員）</li> <li>・ 集客のためには、「行ってみたいと思わせる情報」を発信することが重要（内田会長）</li> <li>・ 訪れた人が住みたくなるようなまちづくり活動に対する支援（田村委員）</li> <li>・ 顧客（市民、観光客など）サービスの向上が信頼の獲得につながるものであり、ITの活用により工夫が可能ではないか（平本委員）等</li> </ul>
<p>札幌の知恵を活かした新たな産業の創出</p>	<p>市民や地域のニーズに合った産業施策 ニーズが高まる健康・福祉・医療分野の産業育成 札幌独自の魅力づくり・情報発信の強化 地域に目を向けた取組みによる札幌ブランドの育成（再） 札幌の魅力をノウハウや生活スタイルも含めて札幌ブランドとして確立・発信(再)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・福祉・健康面の分野は、今後ニーズが増えるので、この分野での産業育成、誘致が必要（内田会長）</li> <li>・農業と薬学の研究との連携で栄養補助剤などの開発はできないか（高田委員）</li> <li>・情報発信、科学する農業についての学習と実践。農業、遺伝子問題、札幌ブランド（付加価値）（高田委員）</li> <li>・福祉とITを結ぶなど、ニーズを企業にふって、それにより新しい技術や雇用が生まれることがあっていい（内田会長）</li> <li>・近隣地域と連携した食品分野の新産業創出（田村委員）</li> <li>・ファッション、食品など分野別のコンテストなどで、一つ一つの業種を丹念に活性化させ、中からいいものが出てきて、札幌ブランドとなっていくのでは（高田委員）</li> <li>・製品としてではなく、暮らしやすい住環境、医療面でのサポートなど、イメージとして札幌ブランドをとらえ、高め、浸透させ、アピールしてはどうか（平本委員）等</li> </ul>
<p>アジアの産業ネットワークの拡大</p>	<p>札幌独自の魅力づくり・情報発信の強化 札幌の魅力をノウハウや生活スタイルも含めて札幌ブランドとして確立・発信(再)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌を気に入って定着してくれる外国人を大切にすることが宣伝につながるのでは（田村委員）</li> <li>・札幌から海外に進出した企業の動きなどの分析をしっかりと（高田委員）等</li> </ul>
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市化において農業の再生は難しいが人材育成が必要</li> <li>・食は生きる力なり、市民は良質な野菜等の供給を願っている、生産者と供給者の信頼の構築（以上 高田委員）</li> </ul>

